

### ■ マタイ6章とローマ書

今日の聖書箇所でもあるマタイ6章から私たちは何を受け取る必要があるのでしょうか。

イエス様が伝えたいのは単純にあの鳥と花を見なさいと伝えていますが、一年間ローマ書を見てきましたがローマ書全体を見ると義認があり、聖化、栄化があります。神様があなたを義と認めてくれてそれによって綺麗になって、あなたは今まで曇っていたけど光が当たると反射して月のように光り輝いて栄光に変えられていくとローマ書全体に書かれています。そして、ローマ書全体が要約されている箇所が「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすればそれに加えて、これらのものはすべて与えられます。」(マタイ 6:33)と書かれていたメッセージに要約されています。

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。」(マタイ 6:26)「なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。」(マタイ 6:28) 被造物は自らを保っています。そして心配することもなく、天を仰いで生きています。だからあなたも心配するなと語っています。そのうえで神の国とその義とをまず第一に求めなさいと語っています。神の義とは何でしょうか？ 早天祈禱会、教会にも行って礼拝している、食前の祈りも捧げて罪を犯さず自分は正しく生きているから大丈夫です。例えばこれが正義でしょうか。これは「ジャスティス」と言う言葉で裁くと言う意味です。しかし、正義は「アドナイツダケイ」。英語で言うと「ライチョスネス」です。神様を見ようする時に人は自らが何なのか分かるので、分かった人はズレないのです。人がズレてしまうと自己中心になります。正しいお方を見ることでズレることに気づき戻ろうとするプロセスがライチョスネスです。問題はズレている事が分かっていない人がズレてないと思っている事です。いつも自分が神の正義を見なくてははいけません。正義とはイエス様自身だと言っているのです、私達が不義であるなら正義を見ればいいのです。

### ■ 「固く立つ」

パウロはローマ書の最後でこのように語っています。「私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち、世々にわたって長い間隠されていたが、今や現されて、永遠の神の命令に従い、預言者たちの書によって、信仰の従順に導くためにあらゆる国の人々に知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを堅く立たせることができる方、知恵に富む唯一の神に、イエス・キリストによって、御栄えがとこしえまでありますように。アーメン。」(ロマ 16:25～27)

「固く立つ」とは、あなた自身のズレがイエスキリストを見ることによって分かるという事です。神様を信じる行為という事は正しいものを見ることでズレているものが何なのか分かるという行為です。全ての被造物全てがしていることです。

あなたの生活の中でイエスキリストによってズレを見つけ戻ろうとする。そうすると固く立つのです。正義とは「犠牲・愛・インマヌエル」です。神の性質とは愛で、その愛は不変でいつもあなたと共にいる方が正義なのです。勝利の旗を持ってあなたに勝利を与えるのです。これが神の奇跡であり神の正義です。

### ■ 正義と福音

神様の福音はあなたの人生において神様を見ようとした時におきた正義によって成された恵みです。そしてそれによって生きようとした時に奇跡は起きます。これが福音です。それはイエスキリストが行ったことに基づいてスタートし、そのヒストリーがあなたに繋がれたのです。繋がれたバトンを受けて走る奇跡がおきるのです。彼の福音を引き継いで生きようとした時に証が起きます。しかし、証者なのに裁判官になろうとします。相手に証をすればいいのに相手を変えようとして、人を変える力はあなたから出る証です。

### ■ キリストの実践

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、

あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。」(ローマ 12:1,2) 礼拝にくるとあなたの何がズレているのか分かります。一人一人が神様の前に出て整える、それが霊的礼拝です。それはしたくない事をことさらに尊んでしてきた私達がしたくないことをやってしまう人生からしたくないことをしないという決断に繋がります。その為に「この世と調子を合わせてはいけません」「心の一心によって自分を変えなさい」この2つの命令が語られています。世の中にあるものに利用されて流されてはいけません。神の義を見ながらこの世に調子を合わせずに生きる努力をしなくてははいけません。これは神的受動態といいます。「神が私たちを変えて下さることを受け入れる」という事です。変わるこそきへも自分の力でなくても良いのです。私達は決断し一歩踏み出すことそれが大切

です。最後に大切なのは調和です。ジャスティスは相手を裁いて排除します。ライチョスネスは神様に繋がるのでみんな繋がるのです。あなたはその橋です。だからやらないと言っている人に対して励まして一緒にイエス様のところに行くことがキリストの十字架です。調和を是非もってください。この世と調子を合わせませんが調和します。調子を合わせるのは妥協、調和は愛です。相手が向かうべき所を見て一緒に下がってそこまで登る行為。自分は上まで登ったけど相手が上がるのが嫌だと言っているのが階段の下まで降りてもう一度一緒に上がっていくのが調和です。しかし、聖書の真理と本質ではない事に対しては戦う必要がある場合があります。例えばナチスの行為に闘ったボンヘッファーという牧師、彼は国家権力が神の権威に従えと書いてあるけど真理の本質にズレているので命をかけて対抗して闘うと言いました。杉原千畝も日本国憲法に背いて外務省の大臣の命令に背いて闘いました。この二人は後にどちらの国の名誉国民になっています。真理というのは時代が変わろうが、文化が変わろうが変わりません。人間の本质、道徳的良心ではなく神が与えた良心の本質は変わりません。しかし、それ以外のことについてはあなたが訓練の為に通っている立場にある権威に対しては従順であれと聖書は言っています。

### ■ ジョージ・ミラーという人

彼は石井十字が影響を受けた人です。ドイツから大富豪になる夢を見てイギリスに行きました。しかし多くの路頭に迷っている子ども達を見て神様はあなたの働きはそこにあると言いました。彼はできないと思いましたが、しかしある日、神様に上に向いて口を開けてみると言われ口を開けました。すると、私はあなたの開けた口に基づいてあなたに与えると神様が言いました。その言葉を聞いて隣を見ると子ども達がいきました。彼は子ども達の為に生きようと決めました。彼が23歳の時でした。彼は決断しました。「多くの孤児を生活させるのに神様にしか祈らず、求めずにこの世の富に求めることはしない」と。あるとき、こんな事がありました。その時も食べ物が無くなってしまい、その日に子どもに食べさせる食糧がありません。彼はいつものように礼拝堂に祈りにいきました。祈っていると、ある農場の食糧工場をしている馬車が走っている時に車輪が外れて動けなくなり荷物だらけで帰れなくなったのでここに寄付したいと言って食べ物1年満たされたのです。こんな風に神は彼に多くのものを与えました。この生き方が神の正義です。どんな問題が起きてもズレずに神の前に出て祈る行為です。人間的な方法で変えようとするのではなく、相手を指さして非難するのではなく、神様に祈ったのです。神様は私達が願った以上に増し加えて必要を溢れさせる程に満たすお方です。

「別の種は良い地に落ちて、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結んだ。耳のある者は聞きなさい。」(マタイ 13:8,9) あなたがもし良い地に種を蒔くなら30倍、60倍、100倍の実を結ぶ。約束されています。だからこそ自分の本質をいつも保ち、自らを良い地しておくことが大切です。

(要約者:富岡 美千男)

(2020年2月16日)